

【令和3年度】指定管理者制度導入施設の管理運営状況総合評価シート

施設名	吹田市立高齢者いきいの家	所管部室課名	高齢福祉室
所在地	吹田市岸部中1-24-11	設置年月日	昭和63年1月22日

1 施設の概要

(1)設置目的	高齢者の健康増進、教養の向上及びレクリエーションのための便宜を提供し、高齢者の相互交流と社会参加を促進するとともに、高齢者の自立支援を図り、もって高齢者の福祉の増進を図ること。		
(2)規模、開館日等	【設備等】 部屋：和室、洋室、多目的ホール 設備：カラオケ機器、マッサージ機、囲碁・将棋、運動機器等	【開館日等】 開館日：月～土曜日午前9時～午後5時30分 休館日：日曜日、祝・休日、12月29日～1月3日	

2 指定管理者の概要

(1)指定管理者	特定非営利活動法人ワーカーズコープ					
(2)指定期間	令和2年4月1日～令和7年3月31日					
(3)選定方法	公募					
(4)指定管理者が行う業務内容	1 高齢者の健康増進、教養向上等のための場の提供、講座の実施。 2 高齢者の交流、社会参加の促進、高齢者の福祉増進に関する事業の実施。 3 施設の使用申請・許可。 4 施設の備品、設備等の管理。					
(5)指定管理者の収支			令和2年度		令和3年度	
			計画	実施結果	計画	実施結果
	収入	委託料 (円)	16,186,000	15,567,445	16,186,000	16,164,567
		自主事業 (円)	1,505,000	39,070	102,000	25,560
		合計 (円)	17,691,000	15,606,515	16,288,000	16,190,127
	支出	管理経費 (円)	16,186,000	15,567,445	16,186,000	16,109,228
		自主事業 (円)	1,505,000	39,070	102,000	49,828
		合計 (円)	17,691,000	15,606,515	16,288,000	16,159,056
	収支差額 (円)		0	0	0	31,071

3 施設の利用状況

利用状況を示す指標			令和2年度		令和3年度	
			計画	実施結果	計画	実施結果
1	利用者数	(人)	9,600	4,262	10,000	5,492
2	開所日数	(日)	293	162(※)	293	191(※)
3	1日平均利用者数	(人)	33	26	34	29
4	主催講座 開催回数	(回)	48	30	142	104
5	共催事業 開催回数	(回)	19	1	2	6
6	自主事業 開催回数	(回)	23	9	3	1

※ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、令和2年度は約6か月、令和3年度は約4か月休館した。

4 ユーザーニーズの把握の状況

(1)把握方法	利用者アンケート、利用者との日頃の会話、目安箱で把握している。
(2)把握結果	施設サービスにおおむね満足との結果だった。アンケートでは不安に思っていること、生活の中で困っていることを聞き取る項目を設けており、自分や家族の健康、自分の生活に不安を覚える利用者が多く、「腰や膝が痛くなり生活レベルが低下した」という声もあった。
(3)結果を受けての対応状況	アンケートで把握した不安に思っていること、生活の中で困っていることを講座やイベントに活かしている。また、アンケートで「囲碁教室がしたい」という声があり、令和4年度に開催できるよう検討している。

5 管理運営状況に対する評価

項目	評価
(1)市民の平等な利用の確保	設置条例・施行規則等を遵守し、使用許可を行っている。
(2)施設の効用の発揮	日頃の会話、アンケート等でニーズを把握しており、講座の内容等に反映している。講座の参加者からは、「毎月の映画会が楽しみ」「講座を機に家でもやってみたい」「(パソコン教室の参加を受け)これからも続けたい」といった声があり、講座をきっかけに、高齢者いこいの家に来館する楽しみや、利用者の新たな趣味の発見に繋がっている。
(3)管理を安定して行う人員、資産その他の経営規模及び能力	事業担当者を常時2～3名ほど配置し、利用者に対し綿密に対応できている。
(4)施設の管理経費の縮減	裏紙やわら半紙の使用、FAXのデータ取り込み、より安価な委託業者の検討、落葉・雑草たい肥作り等を実施。
(5)その他	スタッフの利用者への接遇マナーが親切・丁寧である。また、利用者のさまざまな要望に対し真摯に耳を傾け、柔軟かつ適切に対応している。 地域に根ざした取り組み・連携に積極的である。利用者が地元住民に多いこともあり、日常会話から悩みを聞き取ったり、地域団体等との連携を密に行っている。令和3年度では、自治会への広報紙の配布、近隣小学校が実施するアンケートへの協力を行った。今後は、近隣施設との連携、災害時における地域組織・体制への参画を検討している。
(6)総合評価	協定書等をおおむね遵守し、施設の管理運営を行っていた。業務日誌や市への報告書、施設での利用者の様子から、職員の配慮やニーズへの対応が随所に行き届いていると感じる。 財政面については、自主事業において収支差額が赤字となっている。指定管理者公募時に「自主事業収入も指定管理業務に投じる」と提案を受けたため、収支差額が赤字とならないよう、実施回数や運営方法等を見直されたい。